

①我々は、今回ディレクトフォースで、生き方を主に教えていただいた。一人目の、太田さんは、取締役として、他人のために他を利することを考えていることを大事にしているとおっしゃっていた。他人の上に立つ時は、責任の重さがのしかかる。太田さんは、その、責任の重さをどれだけ楽しく感じることができるか、また、どれだけ楽しさに変えることができるかなどを、よく考えることが人生において大切だと教えてもらった。太田さんは、就職アドバイザーをされていて、たくさんの、経験者に苦労などの話を聞いている。その話などの中で、知ったことは、楽しいことを仕事にするのではなく、興味を持っていることを仕事にすることだそう。また、興味のあることは、仕事だけでなく、その他のことについても大切にすべきだとも、おっしゃっていた。興味を持っていることを、ときには、仕事と切り離して考え、仕事をする中で、それをサポートするような生きがいを見つけると良いのだそう。また、大学を選ぶ時、先々、長く仕事を続けられるように、専門的な大学を選ぶべきだと、おっしゃっていた。さらに、在学中は、一度留学をしてみると良いとおっしゃっていた。留学をして、世界を見て知ると、その比較対象として、日本に興味を持つのだそう。また、留学では英語を話さなければならないことがほとんどである。そのため、英会話能力が身につく。職業能力では、英語が必須である。この点でも、留学は良いのだ。その他の、就職のために養うべき能力は、3つある。1つ目は、考え抜く能力。2つ目は、議論をする忍耐力。3つ目は、情報分析力である。議論をする際に、必要なことは、議論をする相手を敬うことだ。議論をするには、まず、相手がいないと始まらない。これは忘れてはならないことだ。これから、わたしたちは、リーダーという経験をたくさんするだろう。周りの人の意見をよく聞き、尊重することを心に留めておきたい。二人目の川崎さんには、川崎さんの経験を教えていただいた。特に、海外で多く仕事をされていた方であるので、世界で働くことを詳しく聞くことができた。まず、川崎さんは、尊敬する先生をつくるべきだとおっしゃった。尊敬できる存在を身近につくることで目標にすることができ、学業にも真剣に取り組むことができるのだそう。川崎さんは、会社間での取引をしていた方で、会社の責任者として、交渉の場に出ることが多かったそう。交渉の際、会社同士での信頼関係を築くことが最優先であった。私は、誰かと話をする時、最低限の信頼関係があることを前提として話している。信頼関係がある方が、自分の真の心のうちを打ち明けることができ、また、逆もあるからだ。それぞれが本当の気持ちで接することができた方が、話もスムーズに進むだろう。そのような点で、私は、この意見に賛成であった。川崎さんは、世界に出て働く中で様々なことを思ったそうだが、特に感じたことは、海外で働いているという充実感や達成感、異文化に触れること、それによって、各国の歴史を感じ、魅力を見いだすことだそう。例えば、ドイツに訪れた際に、ベルリンの壁を間近で見た経験を、人と話す話の種にしたり、ときには、外国企業との交渉を円滑に進めるための話の材料にしたりもするらしい。様々な経験は、いつか役に立つ時がある事を知った。

②私のグループは、法政大学の教育開発支援機構の教授の方々に話を聞くことができた。私

たちが、聞いた話の内容は、良い教師になるために必要な事や、学生との接し方などだ。まず、いい教師になるために必要なことについてだ。対応してくださった先生が言うには、授業のわかりやすさを追求する事だそうだ。先生がしている具体的な方法としては、板書をする際、プロジェクターを使う方法だ。黒板に書いて説明するよりも、パソコンで授業内容を打ち、プロジェクターで映した方が多くの学生から見やすいのだそうだ。また、授業の最後にアンケートをとり、授業の進み具合はどうか、進むスピードはどうか、授業はわかりやすいか、改善すべき点はどのような箇所か、などを学生に書いてもらう、という方法も取っていた。そうすることで、授業をしている立場ではわからないような問題点を指摘してもらうことができ、さらなる授業の改善を進めることができるのだ。学生との接し方については、特に気をつけていることがあると言う。それは、一人一人の学生と真摯に向き合うことだ。教授という立場にいと、よく相談をされることがある。学生にしっかりと寄り添い、共に解決策を考えてやる。そうすると、非常に感謝される。尊敬される教師になると、学生がついてきてくれるとおっしゃっていた。大学の教授と、私が目指している、中高の教師では、先生と生徒との距離感に大きな差がある。しかし、どちらにも共通して、学生とのコミュニケーションを怠らないことだった。私も、これから、人と接する時、また人から相談を受ける時など、意識していければと思った。

③この、「OBOGによる懇談会」で、最も印象に残った話は、東京大学・東京での生活についての話である。先輩方は、東京大学に入学した頃の頃、クラスごとにオリエンテーションを兼ねての行事を行うと聞いた。それによって、クラスメイトとの親睦を深めるためだそうだ。他の大学ではそのような、クラス内でのコミュニケーションを取るための行事がないらしいので、魅力を感じた。さらに、東京に出てきてからの一人暮らしについて聞いた。一人で生活を続けるのはとても辛いのだろうと思っていたが、東京は交通の便が非常によく、なんでも揃っているため、あまり苦労は感じないとのことだった。しかしながら、お金を使いすぎてしまうことが多々あり、その面では苦労しているとおっしゃっていた。また、先輩方に高校時代の勉強についてきいた。先輩方は皆が口を揃えて、1年・2年生の時にしっかりと基礎的な力を身につけていた方が良いとおっしゃっていた。その通りだと感じた。だから、基礎力向上のために、今まで以上に勉強に力を入れていきたいと思う。

④東京大学オープンキャンパスでは、なかなか時間が合わず、私が目指している教員という仕事に関係ありそうな、教育学部の講義などの、予約する企画には参加できなかった。しかし、それ以外の企画で、私は主に理学部をまわった。その中でも特に面白いと思った企画は、化学分野のラボツアーだ。学部の紹介や、行なっている実験の一部の実演、ラボ内の様子を見せていただいた。ラボの中は、歩ける場所がほとんどないほど、薬品や、実験器具が置いてある棚が密集していた。さらに、実験が安全にできるように、周りを透明な板で囲まれた部屋の側面には、実験をするために緻密に計算された後がくっきりと残っていて、ラボ内の雰囲気を感じられた。学生の方が、説明をしてくださったが、東大では、実験に必要な設備が整っていて、とても恵まれた環境の中で様々な経験を積むことができるのだそうだ。こ

の良い環境に、非常に魅力を感じた。ラボ以外の環境も整っていた。広い敷地内の所々に、コンビニが設置してあり、効率よく、快適に学習をしやすいただろうと実感した。しかし、敷地が広すぎるが故、棟を移動する際に長い距離を歩かなければいけなくなり、大変なのではないか、という疑問を持った。

八月一日、待ち望んでいた東大研修が始まった。この二日間でどのくらいたくさんのお話を聞くことができるのだろうか、本当に楽しみであった。そんな中、行きなり私の気持ちをへし折ったのは、仙台とは比べ物にならないほどの東京の暑さであった。体にまとわりつくような暑さであり、東京駅からディレクトフォースの会場にいくだけでも、汗が吹き出していた。そのような暑さから私を救ってくれたのは、ディレクトフォースの会場であった。そこは大変涼しく、私の東大研修に対する私の気持ちを燃やしきらずに済んだ。私たちのために、快適な部屋をお借りしていただいたことに感謝したい。

部屋にはいると、既にディレクトフォースや笹川平和財団の方々がいらっしゃった。その方々の顔を見るたびに、これから始まる会談に対する興奮が増していくのを感じた。少しして、いよいよ会が始まった。最初は瀬尾拓史氏の基調講演が行われた。瀬尾氏の講演は、ジョーク混じりで聞きやすく、とても分かりやすかった。医療CGも実際に見せていただき、無知な私でさえも、瀬尾氏がどれ程偉大な人物であるかを感じるほどであった。瀬尾氏が大学を選ぶときに「無難に東大かな。」と言ったことは驚いたが、最初から素晴らしい講演を聞くことができ、非常に感動した。

その後は川崎有治様、渡邊敦様、太田淳一様の三名からお話を伺う事ができた。

まず、最初にお話を伺ったのは、川崎様だ。川崎様は、企業間のM & A交渉(企業間での合併や買収のこと)の仲介となり、見事に成功させた。ものすごく大きな責任と共に世界で活躍された方である。川崎様のお話で印象に残った言葉がある。それは「好きこそもの上手なれ」だ。私は将来なる職業について迷っていたが、この言葉で決心できたと思う。また、私たちに向けて「急がず、休まず、慌てず、そして驕らず。」という言葉を送ってくださった。川崎様のお話は、魅力的で海外についても関心を抱かざるを得なかった。次にお話をしてくださったのは、渡邊敦様だ。渡邊様は世界の海洋調査や生態系、環境についての研究をなさっている。私たちは渡邊様から、日本の環境の多様性や生態系保全等について学ぶことができた。将来について、というよりも、現在の環境や生態系について深く話し合うことができ、初めの緊張も解けて楽しかった。そして、最後にお話をいただいたのは太田淳一様だ。太田様とは、会が始まる少し前からお話をさせていただき、緊張ぎみだった空気もなごんでいた。太田様は、今までに多様な仕事を多くこなしてきた大ベテランである。太田様のおっしゃる高校生活の大切なことは自分の複数の夢について考え始めること、勉強や体験は自分の夢を叶えるためであるという自覚をすること、健康作りを行うことだそう。また、考え抜く能力、議論する忍耐力、情報分析力を養うべきと述べていらした。これらを意識して高校生活を送りたい。また、これから経験するであろう責任者としての心構えを教えていただいた。それは利他主義になるということだ。人は利己主義に陥りやすいが、何よりも他人、会社を優先すべきということを学んだ。また、部下の長所を伸ばし、チーム力を上げることも重要らしい。私たちの就職活動について、予めその仕事の辛いところを聞いておくべきで

あり、自分は何をやりたいのかを考えて活動することが大切だと分かった。短い時間ではあったが、そんな中でもしっかりと話し合いをすることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができた。ディレクトフォース、笹川平和財団の皆さま、本当にありがとうございました。

素晴らしい話し合いのあと、大学訪問のため、私の班は法政大学へと向かった。汗はかくものの、話し合いがあまりにも素晴らしいものだったため、東京の暑さはほとんど気にならなくなっていた。訪問まで時間があり、私たちは法政大学のキャンパスを歩き回っていた。校舎はきれいで、設備も整っており、さすが法政大学だと感じた。そしてついに大学訪問が始まった。対応してくださったのは経済学部の竹口圭輔教授と佛坂公子様、大学の職員の方だった。訪問前の楽しみな気持ちはどこにいったのか、ついつい緊張で固まってしまった。しかし、竹口教授らが優しい口調で話しかけてくださったため、緊張も少し解けた。私は、将来小学校の教員になりたいと思っている。そのため、小学校と大学は違うものの同じ教員という職について研究をしている法政大学へ、訪問させていただくことになった。訪問では教師のあり方についてお話をしたり、よい教師とはどのようなものなのか。ということについて意見を聞くことができた。「生徒は自分を映す鏡」竹口教授の言葉である。なぜかはわからないが今回最も印象に残っている言葉だ。生徒とのコミュニケーションにおいて常に気を抜かず、いつでも全力で行う。生徒は自分を映す鏡であるから、自分が気を抜くと相手も気を抜いてしまう。そういう意味らしい。何となくだが、しっくりする。また、竹口教授は長い時間だけでなく、生徒との瞬間を大切にしているそうだ。そのために、何よりも先に生徒の名前を覚えるようにしているらしい。教師というのはそこまで気を使うものなのかと感激すると共に、自分も教師になったら…と期待も膨らんだ。授業の仕方については、「コンティニュー、スタート、ストップ」を意識しているそうだ。コンティニューとは、工夫をしていることを続けること。スタートとは新しい工夫を始めること。ストップは今までの工夫をやめること。である。私なりの解釈ではあるが、生徒たちのニーズに応えていく。ということであると思う。予定時間をオーバーしての長い時間話し合うことができた。竹口教授らの話を聞いているうちに思わず教授という職に関心を持ったが、それ以上に教師になりたいという思いが強くなった。多くのことを学ぶことができた。対応してくださった方々、本当にありがとうございました。

たった1日で、ここまですごい経験ができ、満足していたが、一日目は終わってはいなかった。なんとその日の夜は二高のOB.OGの東大生の方々から話を聞く機会があったのだ。普段の勉強方法について教えていただいたり、東大合格の秘訣を聞いたりしたことで勉強に関する心配が減り二日目の東大オープンキャンパスが楽しみになった。そんな中身のつまった一日はあっという間に終わってしまった。そして二日目、東大オープンキャンパスが始まった。初めて見る赤門やキャンパスには思わず興奮してしまい、なかなか落ち着くこと

ができなかった。私は、講座の申し込みに遅れたため、講座は、一つしか申し込むことができなかった。しかしながら、ラボツアーやキャンパス見学だけでも十分に回ることができた。ラボツアーでは、見たこともない化学式がいくつかの落書きと共にかかれており、研究室も整っていた。まさに自分のイメージ通りの東大であった。キャンパス見学では、理学部物理科へいった。物理科の東大生の方に対応していただき、東大の魅力をたっぷりと教えてくださった。私が受けた唯一の講座では、東大のシステムについて聞くことができた。すべてのキャンパスを回ることができなかったものの、こんな私が東大に入りたいと思うほどの充実したオープンキャンパスであった。

私はこの有意義な二日間で 多くのことを学ぶことができた。この二日間で、私に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。また、東大研修の企画、引率をしてくださった先生方、お陰さまで多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。そして、高い費用をかけて東大研修へ、送ってくれた父と母に感謝したいと思います。